

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

都市計画課

会議名 第5回 諏訪市都市計画マスタープラン改定委員会

開催日時 平成30年12月14日(金) 13:30~14:15

出席者 委員(敬称略):伊藤三和子、岩波健一、金子智子、神山裕子、倉田直道、松枝明美、宮澤節子、  
請地 貴史(代理:宮坂政法)、矢崎竹代、渡邊芳紀 10名  
諏訪市:金子市長、小松建設部長、金子都市計画課長、下澤計画係長、百瀬主任、武井主任  
傍聴者:なし

資料  
◇事前配布資料  
【資料1】諏訪市都市計画マスタープラン(案)  
【資料2】諏訪市立地適正化計画(案)  
【資料3】地区説明会資料(両計画(案)の概要版)  
【資料4】地区説明会開催結果  
【資料5】パブリックコメント実施結果  
◇当日配布資料  
次第、委員名簿

## 協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

### 3 協議事項

- (1)都市計画マスタープラン(案)について
- (2)立地適正化計画(案)について
- (3)地区説明会開催結果について
- (4)パブリックコメント実施結果について
- (5)今後の予定について

### 4 委員長・副委員長から市長へ両計画(案)提出

### 5 市長あいさつ

### 6 各委員あいさつ

### 7 その他

### 8 閉会

[質疑意見一括]

### 3 協議事項

#### (2)立地適正化計画(案)について

委員:立地適正化計画 51 ページの表の下段について、諏訪大社上社周辺と豊田小学校周辺の説明内容が逆ではないか。

事務局:おっしゃるとおり記載内容が反対になっているため、記載内容を入れ替え修正する。

#### (3)地区説明会開催結果について

委員長:地区説明会等で、一般の皆さんに馴染みのないこのような計画にある程度御理解をいただけているのか。

事務局:地区説明会へ出席いただいた方は各地区10名程度で、区長さんや区の役員の方が多かった。以前にも両計画の内容を通知させていただいていることもあり、特に居住誘導区域などについては、ある程度理解していただ

いていると感じている。

## 6 各委員あいさつ

委員：マスタープランについては何も知らず、こういった委員会があることも知らず、頼まれて参加することになった。自分の責任を今頃感じている。こういった計画があり審議されているんだ、これからは計画に向かってそれぞれの方が意見を出し合ってより良い方向に進んでいけばよいと感じた。

委員：私は防火防犯組合という立場でお声掛けいただいたため、防災の関係については大変興味深く、また、しっかりやっていただければという思いでいる。また、ハード面は行政の方でやっていただきながら、地域や消防団とのつながりといったソフト面に関しては、防火防犯組合の方でも協力できることもあろうかと思う。是非いろいろ話をいただきながら、細かい所まで対応できる体制を作らせていただければと思う。

また、教育委員もやらせていただいているが、子どもたちが暮らしやすいまちづくりをしていただきたい。子どもたちが安心して暮らせるまちや安心して通学できる道路行政、大きくなった子どもたちが戻って来て諏訪で勤めてもらう、それが諏訪の人口増加にもつながることだろうと思うため、地元の子どもたちに戻って来てもらえる、またよそから来る子どもたちにとっても魅力のあるまちづくりをしていただければありがたい。また、協力できることがあれば、できる限りさせてあげたいと思う。

委員：諏訪圏6市町村全体の移住の窓口として相談を受ける中で、諏訪市というのは知名度が断トツである。蓼科や山麓に住みたいという相談が諏訪市役所に来る。先月あった話だが、茅野市に転勤した方が子どもの教育のために諏訪市に住みたいと諏訪市に相談に来ていた。現在人口は茅野市の方が多くなったとは思いますが、知名度や外部から見て、6市町村の中で諏訪市というのはリーダーである場所だと思う。そのため、6市町村を引っ張っていただけるような諏訪市になっていただきたいと思う。

委員：観光という立場で言うと、「諏訪」というのは6市町村全てを「諏訪」だと思っているお客様がすごく多い。何らかの形で諏訪が良くなっていくことは良いことだと感じている。

委員：資料を拝見し、素晴らしい資料だと思った。皆さんが安全で安心して暮らせることを目指すのが警察の立場であるため、そういうところを市の方で是非できるような状態にしていきたいと思う。また、警察の方も協力できることはしたいと思っている。

委員：昔は道が通ると人の流れが変わり、住宅も増えるということがあったが、今はなかなか住宅が増えても人口が増えない状況が起こっている。

また、この資料は本当にすごい資料だと思い、一生懸命読んだ。少しずつ皆の意識が変わってきたことを、自分のこととして感じている。上諏訪はどういう印象か外の人に聞いてみると、最初に温泉を挙げてくれた。上諏訪温泉はすごい財産だと思うため、大切にしていって欲しいと思う。

委員：市長にはこの諏訪の環境の良さを活かして、是非人口を減らさないような政策を執ってもらい、このプランがあまり役に立たなくてもよいような諏訪市にしていいただければありがたいと思う。諏訪は非常に道も狭く、歩道もなく、住みづらはたくさんあるが、その代わり良い所もたくさんあるため、良い所を強調し、是非良い市にしていいただきたい。

委員：20年くらい前に市役所の方をお呼びし、諏訪の良い所を見直しましょうという会を開いた。私は諏訪で生まれて諏訪で子育てし、今も住んでいるが、その時に私が気付かなかった観光資源や自然資源などたくさんの良い所を出してくださった。こういう所で子育てできる、活動できるということはとても幸せだなと感じたことを今思い出している。若い方にとってまだまだ非常に大変な時代だということを感じているが、見方を変えるといろいろな世代の方たちが新しいことを発見し、それを「諏訪は良かったね」と感じていただき、あの時の感動を伝えていければと思っている。

また、本当に資料がたくさんあり、諏訪のことをもっと知らなくてはいけないなということを改めて感じた。いろいろな人たちがここで生活しているということ、子どもたちに伝えていきたいという思いもある。こういう機会に参加させていただくことで、改めて諏訪や諏訪の将来を考えていくきっかけを作っていただき、本当に良かったと思う。

委員長:間違いなく当初の都市計画マスタープランができた 20 年前とはかなり時代や社会が変わってきていると思う。そういう意味で、これから我々が経験する新しい時代はどういうものかを見据えて、その中でどういった豊かな暮らしを実現するかということを考えることが、このマスタープランの非常に大事なところではないかと思っている。今回、特に立地適正化計画というのは、大きな時代の変化の中であえてマスタープランに加え、必要になってきている計画である。ただ、日本では一般的にコンパクトシティという言い方をしているが、必ずしもまちを小さくまとめてしまえばよいという話ではない。コンパクトシティやそれに近い話が世界中いろいろな所でされており、世界全体では持続可能な都市づくりや持続可能な社会をどのように作っていくかということが目標となっている。それは最終的には暮らしやすいまちになるということでもあり、そのための計画であると受け止めていただければと思う。さらにその中で、計画に魂を吹き込んでいただくことが非常に大事である。それができるのは行政ではなく、市民の皆さんだと思う。それはどういう形かという、これらの計画は次の時代の我々のまちのビジョンと受け止めていただき、皆さんが一緒になってそれを目指し、実現していこうとなっていったときに初めて計画が形になっていくのだと思う。皆さんにそういった理解をしていただいて、是非計画に魂を吹き込んでいただきたいと思う。

なぜこういったことを申し上げるかという、どこでもこういった議論がされているが、計画を作ることが目標になってしまい、計画によってあまり地域や社会が変わらないと見ている人たちが専門家も含め多い。そういう意味で「諏訪は違うぞ」というところを是非実行していけたらと思う。そのために実は計画ではハードの話をしているように見えるが、皆さんの生活、暮らし方を少し変えていかなくてはいけないという提案でもある。少子高齢化で人口が減っていく中、どういった暮らし方をすればよいかということ、皆さんに考えていただく機会でもあるのではないと思う。そういう意味でもこの計画を是非活かしていただくとよいと思う。私は諏訪に毎日暮らしているわけではないが時々帰ってきており、間違いなく私の故郷であり、実際に私を育ててくれた場所でもあり、これから将来お世話になる可能性がある場所でもある。そういう意味で、こういう計画を作ってよかったなと思える計画になればと思っている。